

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000433		
法人名	医療法人 英生会		
事業所名	英生会 グループホーム ゆめみの		
所在地	江別市ゆめみ野東町33番10号		
自己評価作成日	平成22年6月10日	評価結果市町村受理日	平成22年8月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居様がいつまでも尊重され、自分らしさを発揮できるよう、活気と笑顔を生み出すケアをチーム全体で取り組んでいます。ゆめみの介護理念10カ条を常に念頭にいれ日々のケアに役立てております。町内会での催し物や市内等で行われている、ちぎり絵などの教室に参加するなどして、地域との関わりを多く持てるようにしています。又個人個人の希望を取り入れて個別での支援を多く出来る様にしています。管理者や職員は理念に掲げている利用者の残存機能を刺激しながら利用者の意思を尊重した個別支援の充実を目的としてケアに取り組んでいます。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171000433&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171000433&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年7月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

江別市内の閑静な新興住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームで、小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている。近隣は緑豊かな住宅地で、敷地には花壇や畑があり、散歩や外気浴を楽しむ環境に恵まれている。事業所内は清潔で明るく、居間と食堂が一体的で、エレベーターやスプリンクラーなど設備の面も整っている。理念が共有され、職員の教育や勤務体制、委員会制度などを充実し、職員同士のコミュニケーションもよく取れている。また運営推進会議を活用し、地域との交流を図ったり家族の意見をきめ細かく収集している。医療面での往診体制や看護師の配置など、法人全体での支援体制も充実している。介護サービスの面では、詳細な情報とアセスメントシートやチャート表に基づく介護計画の作成や、日々の記録、家族とのやりとりなどの文書化ルールが整っている。外出の面でも日々の散歩や買い物の支援の他に行事や外食での外出や日帰り温泉に出かけるなど、利用者の希望に合わせた個別の支援も行っている。アンケートなどで家族の意見を積極的に聞くことで信頼関係もでき、家族の安心にもつながっている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念十カ条と基本方針を作り「その人らしい生活を支えるケア」を念頭に理念を作っている。	元々の事業所の理念に具体的な5項目を加え、その中で「地域に開かれた、地域の一員として生活することを支える」という文言を入れている。理念と年度目標をスタッフルームに掲示し、職員間で共有しており、職員は名札の裏に理念を入れて常に確認している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と共に回覧板を届けに行ったり、散歩等の際は積極的に挨拶や会話を行い触れ合いの機会を作れるように努めている。又、自治会で行われる婦人会などにも参加している。	利用者が散歩に出かけ、近隣住民と会話している。回覧板を利用者と一緒を持っていき、町内会の催し物(いきいきサロン、遠足など)にも参加している。また、歌会や紙芝居のボランティアの訪問も受けている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の広報を回覧板で回して頂き、その中に認知症についての連載などを行い、理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の状況報告、各委員会の報告、行事報告、稼働状況報告などを行い、必ず質疑応答の場を設け、参加者の意見を反映出来るように努めている。	運営推進会議は概ね2ヶ月毎に開催され、住民代表、地域包括支援センター職員、利用者家族、事業所職員などが参加している。現状報告やサービス評価に関する報告、事故や感染症などの委員会からの報告を行い、参加しなかった家族にも内容を報告し意見を得ている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも包括支援センターの方へ出席して頂いている。又、解らない事などがあった場合には電話や窓口で訪問しながら連絡をしている。	法人の担当者や管理者が市の窓口と情報交換を密に行っている。市の管理者会議や交流会にも積極的に参加し、情報を積極的に収集している。毎回の運営推進会議には地域包括支援センター職員の参加を得ている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月1回会議が行われている。そのなかで具体的に身体拘束について話し合い、内容は議事録にて全職員に周知徹底するよう努めている。又、カンファレンス等でも利用者の尊厳に向けて話し合いが行われている。	隣接する小規模多機能型居宅介護事業所と各ユニットの計3名からなる「身体拘束廃止委員会」をつくり、常に身体拘束のないケアができていないかチェックをしている。施錠については日中玄関には鍵をかけず、自由に出入りできる。各ユニットの出入口にセンサーを設置して利用者の出入りがわかるようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束についての研修や法人でおこなわれる勉強会などの参加に努めている。又、定期的に家族や職員に向けてアンケート調査なども身体拘束委員会でやっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニット内で勉強会を行ったり、定期的に勉強資料を職員に発行している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が事前にご本人に面談へ行ったり、家族への説明も行っている。又、入居後も契約に関する質問等があった際は都度対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来訪時には、利用者の状態報告を通じて、密にコミュニケーションを図る様に努めている。又、ご家族に、アンケートを配布し、要望を反映出来るように努めている。	家族に気軽に意見を言ってもらえる雰囲気づくりを心掛け、定期的にアンケートも実施している。運営推進会議の結果を家族に送付し、来訪時に会議についての意見も聞いている。意見は個人申し送り帳に記録し職員間で共有している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやユニット会議、管理者会議等で意見を交換し合い、業務改善に努めている。	ミーティングや毎月のユニット会議の中で職員同士で活発に意見交換し、運営に反映している。法人の部長、課長および管理者が職員と個別に話し合う機会を設け、意見を聞くようにしている。また利用者のダメージを防ぐため、職員の異動は必要最低限としている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者、上司は定期的に現場に来ており、利用者と一緒に過ごしたり、個別に職員の悩み事やストレス等に気を配っている。又、外部研修参加などにも積極的な姿勢がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員には、育成担当職員をつけるようにして、不安なく業務に慣れるように配慮している。又、外部研修にも積極的に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム「あおいの会」と言うグループホーム交流会を結成し定期的に交流が行われ、参加している。その場で情報交換や意見交換などを行い、事業所外の人材の意見なども日々のケアに取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の生活状況をなるべく詳しく把握出来るようにアセスメントシート、生活情報シートをご家族へ渡し、記入して頂いている。又、入居者によって小規模多機能から利用して頂き、ご本人の不安等を理解出来る様工夫に努めている。契約前に見学して頂き、困っている事、求めている事など、本人自身からも聞く機会を設ける事もある。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族にはパンフレットの配布を行い、見学時や面会時に不安な事、求めている事などを詳しく聞くようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族と面談を行い、在宅診療、訪問歯科、訪問看護との連携や床屋の説明など詳しく行っている。又、入居後速やかに、本人や家族の希望を元に初期計画作成を行っている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者と職員が互いに協働しながら暮らしの中で共に支えあえる関係作りに努めている。日常生活の中で利用者に教えてもらう場面やお手伝いをして頂く場面を持てるように工夫している。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や月1回家族宛てに送る手紙を通じて、コミュニケーションを十分に図れるようにしている。又、家族の思いに寄り添いながら話を聞き情報の共有に努めている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者個々に外出の機会を設け、個々の生活習慣を尊重している。又、これまで行ってきた家族や友人との交流が継続的に保たれる様に支援している。</p>	<p>利用者の古くからの馴染みの関係が途切れないよう、知人との手紙や電話のやりとりを支援したり、馴染みの美容室の送迎を行ったりしている。利用者が自治会の行事に参加し、昔の知人に会う機会も得られている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>食事やオヤツの時間は職員も共にして、多くの会話や発見が出来るようにしている。日々のお手伝い等を通して、利用者同士の関係が円滑になるような声掛けを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した方や家族にも手紙を送ったり、会いに伺ったり職員はしている。又、いつでも遊びにきて頂けるよう声掛けも行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者を中心に日々の関わりを密接に行い把握に努めている。又、介護計画書の中にも本人の希望を取り入れ目標にしている。	言葉で思いを表現することが難しい利用者でも、表情やしぐさ、行動パターンから思いや意向を把握し、情報を職員間で共有している。事例検討、アセスメントシートやチャート表の作成などで把握する能力を高めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に馴染みの家具や飾りを自室において生活環境を整えている。又、ご家族へもこれまでの生活歴をアセスメントシートに記入して頂き把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシート(コミレーダーチャートや、センター方式)などで初めに1日の過ごし方から把握に努めている。又、日々の生活の中から出来る事に着目し職員間で情報交換をし全体の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族から思いを聞き、ケアマネジャー、看護師、職員、時には本人を含めて話し合いを行っている。又、医師にも必要に応じてアドバイスを受け介護計画作成し活かしている。	利用開始時に家族等から情報を収集して詳細なアセスメントシート、チャート表を作成し、関係者と話し合った上で介護計画を作成している。日々の記録や気付いたことを基に3ヶ月毎にモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、生活面、体調面を記入している。又、記録にも本人の言葉やエピソードを解り易く記録し職員が情報を共有出来るようにし、介護計画にも活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や面会は自由であり、面会時間もいつでも自由に入出りできるようにしている。又、御家族の宿泊もいつでも受付している。ご家族の必要に応じるよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の傾聴ボランティアや歌のボランティアを活用している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっており、通院支援も行っている。必要に応じて他科受診も行い、複数の医療機関と関係を保っている。	母体法人の医療機関による月2回の定期的な往診を受けており、それ以外のかかりつけ医の受診についても事業所で受診支援を行っている。また週5日、常勤の看護師を職員に配置している。受診の内容は個人申し送り帳に記録し、家族に適切に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。又、訪問看護ステーションとも密に情報を共有し医療的な助言や相談等を行っている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院が出来るようアプローチしている。入院時には付き添いを行い、本人の情報を提供し、職員はお見舞いに行っている。家族との情報交換を密に行い、速やかな退院に結びつけれるよう努めている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に意見を聞きながら、グループホームでの看取り、医療機関での看取りを確認し、承諾して頂いている。	医療行為の必要のない範囲で看取り介護を行う方針とし、実際の看取りの経験も積んでいる。利用契約書と急変時の承諾書にて重度化した場合の対応を家族に説明しているが、さらに「重度化した場合の対応に係る指針」の作成についても検討している。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は直ぐに対応して頂けるよう医療機関と密に連携を図り対応している。終末期の医療面での処置にかんしてもご家族と相談し方針を決めている。又、急変マニュアルを作成し職員に周知し、夜間の緊急対応にも備えている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力と地域住民の協力を得て、通報、避難訓練、消火訓練などを定期的に行っている。又、日中、夜間想定した自主避難訓練も定期的におこなっている。	5月に消防署の協力を得て夜間を想定した避難訓練を実施しており、その他に日中を想定した自主訓練も定期的に行われている。訓練には近隣住民4名の参加も得ている。スプリンクラーも設置済である。一方、職員の救急救命訓練については定期的な受講には至っていない。
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人生の先輩」として、敬意を払う事を常に意識して接している。目立たず、さりげなくを基本として配慮している。	言葉遣いの適正に関する評価基準をシートで示し、不適切ケアの防止に取り組んでいる。個人情報に関する文書類は事務室で保管し、記録は頭文字を使用している。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思や行動を尊重し無理強いはいはしないようにしている。又、利用者に合わせて声掛けを行い、意思表示が困難な方には表情や行動から読み取れる様に努めている。	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自発的な行動を重視し見守りを多くしたケアを行っている。又、出来るだけ個別性のある支援を行っている。買い物や散歩など一人一人の思いに配慮しながら柔軟に対応している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ、本人の好みを尊重している。職員は見守りや介助が必要とする場合に手伝っている。又、本人の好みの洋服を買いに買い物へ行くなどもしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けはさりげなく声掛けを行い利用者と共に行動し、残存機能を活かす様に働きかけている。食事も職員は同じテーブルを囲んで共にしている。BGMにも気を配り食事を楽める雰囲気心を掛けている。	週2回利用者の好みの献立を取り入れて、買い物から調理の下拵え、下膳などを職員と一緒にしている。旬の食材や事業所の畑で収穫した野菜などを取り入れ、彩りよく豊かな食卓である。外食や行事食、出先で名物を味わうなど食事に変化をつけて楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分量等を個人記録に記入し把握出来るようにしている。又、栄養バランスが不足がちな利用者には補食として高カロリーゼリーなどを提供している。個々に合わせた食事の形態で提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人個人の状態に合わせて口腔ケアを行っている。又、週1回の歯科往診時に口腔内清掃指導や状態観察を歯科衛生士にみて頂いている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄、排尿チェック表を作成し、個人の排泄パターンの把握に努めている。又、自尊心や羞恥心に配慮しながら必要な方は随時誘導を行っている。	排泄チェック表を詳細に記入し、職員間で情報を共有しながら個々のパターンを把握している。できるだけトイレ排泄に至るよう誘導を行い、排泄に課題が生じた場合は、水分形態の見直しや衛生用品使用についてカンファレンスを行い、家族・本人と相談して進めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の摂取量や水分摂取量も日々気を配っている。又、運動を共に行ったり、オリゴ糖を使用するなどし、排泄がスムーズになるように取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決めておらず、職員が2名配置している時間帯は常に対応している。又、体調管理にも十分注意し、入浴中はBGMなどをかけるなどして入浴を楽しめるよう支援している。	入浴は毎日可能で、日中帯の支援のほか夜間帯も職員数により柔軟に対応し、最低週2回は必ず入浴できるようにしている。拒む利用者には職員がゆっくりと向き合い、心情を察しながら安心してもらえるよう声かけを行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の睡眠チェックシートを使用し個々の把握に努め、日中の活動を通し、1日の生活リズムを整える様に努めている。又、表情から体調不良や疲れがないかを読み取り、そのようなときは無理強いせずに休んでもらう様に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストや服薬マニュアルを作成し、内容を把握出来る様にしている。又、薬の指導等に薬剤師や看護師から助言をして頂いている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る力を活かし、役割を持って頂き、好きな事が継続して行える様にしている。又、自信が持てるような声掛けや関わりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常会話の中から本人の希望や行きたい所などの意見を見逃さず、個人支援へとつなげている。又、天気の良い日は散歩へ出たり、買い物への支援を行っている。	散歩は近隣の公園に出かけ、単独での散歩希望がある場合は職員が見守り支援を行っている。ショッピングセンターへの買い物では、帰りがけに喫茶店に立ち寄りたりと柔軟な対応をしている。目的を有する行事的な外出支援も多く、時々家族も同伴するなど全員で楽しめる企画となっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方からお小遣いとしてホームでお預かりしているが、必要時に使用できる様にしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用する事が出来る環境を作り、手紙や絵手紙を家族や友人に送れる様、必要に応じ職員が代筆したりしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、写真を掲示している。又、利用者で作った作品などを展示したりしている。玄関や廊下にも椅子とテーブルを配置し何時でもくつろげる空間作りを心掛けている。	台所と対面するリビングダイニングは明るく、2階ユニットの居間からはベランダが続き広い空間となっている。廊下に利用者手作りの作品や楽しさを演出した写真などを飾り、潤いを醸し出している。全体的に衛生管理が行き届き、共用空間の要所にはエア換気システムを設置し空調に配慮している。家庭的な設えであり、一人ひとりの居場所づくりにも工夫を凝らしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前にテーブルや椅子を設置し、廊下にも思い思いに過ごせる空間を作っている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族と相談し、馴染みの家具を持参していただいている。本人の希望にも合わせ使いやすい様に配置し居心地よく過ごせる様に配慮している。	居室にはクローゼットが備え付けられており、慣れ親しんだ家具やテレビ、冷蔵庫などが持ち込まれている。室内のレイアウトは、家族や本人と相談しながら居心地の良さや使いやすさを考慮してセッティングし、思い出の写真や植物が飾られ、温かみのある空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには表札をつけ分かりやすい様にしている。歩行器等を使用するなどし安全に生活が出来る様に配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000433		
法人名	医療法人 英生会		
事業所名	英生会 グループホーム ゆめみの		
所在地	江別市ゆめみ野東町33番10号		
自己評価作成日	平成22年5月15日～平成22年7月7日	評価結果市町村受理日	平成22年8月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご入居者様がいつまでも尊重され、自分らしさを発揮できるよう、活気と笑顔を生み出すケアをチーム全体で取り組んでいます。ゆめみの介護理念10カ条を常に念頭に入れ、日々のケアに役立てております。町内会での催し物や市内等で行われているちぎり絵などの教室に参加するなどして、地域との関わりを多く持てるようにしています。又、個人個人の希望を取り入れて個別での支援を多く出来るようにしています。管理者や職員は理念に掲げている利用者の残存機能を刺激しながら利用者の意志を尊重した個別支援の充実を目的としてケアに取り組んでいます。</p>
---

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171000433&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171000433&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年7月22日

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	職員は、理念を名札に携帯し、常に確認できるようにしている。		
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	事業所の行事に参加していただいたり、自治会で行う花植え等に職員と利用者は参加し、交流を図っている。		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	自治会に加入し、町内会の催しへ参加したり、GHの行事に参加してもらっている。また、町内の方に運営推進会議に参加してもらったり、避難訓練にも協力してもらっている。		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	概ね2か月に1度運営推進会議を開催し、入居状況、行事報告、事例発表等を行っている。又参加者からの意見を取り入れ、サービスの向上を目指している。		
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	市の介護保険課に立ち寄った際に、解らない事を相談したり、運営推進会議にて、地域包括支援センターの担当者の方へ出席して頂き、実状報告をし、意見を伺っている。		
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	月に1度身体拘束委員会を開催し、職員の不適切なケアについて報告し、話し合い、その都度改善するようにしている。また、家族にもアンケートを配布し、分析している。玄関の施錠は、日中の活動時間内は施錠せずに、いつでも出入りする事ができる。		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	職員は、虐待についての研修を受け、事業所内で研修発表をし、全員で学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んできた職員は、事業所内で研修発表をし、全員に伝達している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前必ず本人とご家族に施設見学をしてもらい、契約時には、契約書を口頭で分かり易く説明し、良く読んでいただくようにしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	身体拘束委員会による職員に対するアンケートを実施し、家族や来訪者に意見を伺う機会を設けている。運営に関する内容は、運営推進会議で現状報告と意見交換の場とし、入居者の要望家族の意見も伺い反映させている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する書類は職員に開示しており、意見や提案があった際は、個別に聞く機会を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の得意とする分野を發揮してもらえような作業をお願いしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や実績の把握をし、研修参加への機会を提案し、無理なくトレーニングする事が出来るようすすめている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの会を概ね月1度開催しているため、管理者や職員が参加し、相互の活動内容や意見交換をし、サービスの向上に取り組む機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前可能な限り本人に会い、直接要望を伺ったり、表現する事が難しい場合は、家族から話を伺い、職員間で情報を共有し、事前に対応すべきことや初期計画を作成し、ケアの方向性を考え、安心を確保するよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前ご家族とは十分に話し合う時間を設け、不安に感じている事を解消し、安心して頂けるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の本人とご家族との関係がごく自然なものになるように、入居に至る経緯や必要とされている事を伺い、必要な支援を見極め対応策を考えている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、敬意を念頭に置き、その人らしさが失われることがない支援を前提に考え、家事を一緒に行ったり、昔話を聞かせていただいたりし、関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人の様子を細かく伝え、情報を共有している。またご家族にしか出来ない事には協力をお願いし、より良いケアが提供できるよう努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切に感じている、町の行事に参加したり、友人、隣人に面会に来て頂いたりしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格やその日の精神状態を十分に把握し、時には職員も一緒に会話に参加するなどし、利用者同士良い関係が築けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退居された利用者へのお見舞いや、面会には行き、本人が少しでも不安に思わないよう、馴染みの関係を続けている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志疎通困難な利用者にも表情等からくみ取り、一人一人の希望、意向が叶えられるよう、生活の質の向上に向けて検討し、ケアしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前できるだけ本人、ご家族からその方のこれまでの生活歴やライフスタイルについて、どんな小さなことも聞き取り、職員間で共有し、統一したケアを実践している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のその時々々の体調や精神状態の変化を把握し、職員全体で共有しケアに努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族に意向や希望を良く聞き、職員間で本人の変化等を話し合い、介護支援専門員の指導を受けながら、よりその人本位の介護計画の作成、ケアの実践に努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアを通して、利用者の心身、体調の変化を事細かく記録し、介護計画書の作成に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のご家族の状況に応じて、通院を介助したり、希望があればご家族の宿泊もその都度検討している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の傾聴、歌、化粧、蕎麦打ち、民謡等のボランティアを受け入れ楽しみのある生活を提供している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である病院より、月2回の在宅診療を受け、急な通院もご家族が都合がつかなければ、職員が行う等し、柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師を配置し、日々の健康管理、通院を行っている。入居者の些細な変化もその都度相談し、助言や指示してもらっている。また、看護師が不在の日や夜間帯は、訪問看護と連携し、利用者の健康は24時間管理されている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体である病院に入院する事が多く、その際主治医、看護師、相談員とも情報を共有し、退院後もできるだけ混乱が生じないよう連携をとっている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時や看取りについては、家族の承諾書に記入していただき、意志を確認している。職員全員家族の希望を認識している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、緊急時や事故発生時は手順に従い、対応している。また、AEDを設置している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立ち合いのもと日中、夜間を想定した避難訓練を行っている。また、近隣住民の協力も得ている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁などの介助が必要な時も、他者に知られる事がないよう配慮している。また個人情報に関する物の管理を徹底して行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出した際、メニューの中から好きなものを選んでもらったり、GHの献立を決める際にも食べたいものを聞き取ったりしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、おやつ、就寝で大まかな1日の流れはあるが、できるだけその時の本人のペースを優先するようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは本人が着たい物を選んでもらっているが、自己決定が困難な利用者へは介助を行っている。職員は、利用者に対し、常に清潔にしているよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立にし、テーブルのところどころに職員を配置し、会話を楽しみながら食事している。また、利用者の気分の向いた時は、下ごしらえ、盛り付け、配膳、後片付けを一緒にやっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は記録し、摂取量が少ない方には、好みの物を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床時、就寝時に口腔内の清掃を行い、週2回義歯洗浄剤を使用している。また、週1回協力歯科より来ていただき、指導してもらっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員の排泄チェックを行い、一人一人の排泄パターンを共有し、サインのない方も時間毎にトイレへ誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を使い、排便パターンを確認し、便秘時には薬だけに頼らず、水分補給、ヨーグルト、繊維質の食材、センナ茶を使用している。また適度な運動もしていただいている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全員が出来るだけ週3回は入浴していただけるように考えている。拒否が強い場合は、家族面会時に入浴を勧めてもらう事もある。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の夜間の睡眠状態を観察しながら、必要な方には昼寝を勧めたりしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬リストを作成し、全員の薬の内容を把握している。服用の際は確実にのみ込んだことを確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意分野を把握し、その時の希望を踏まえ、ジグソーパズルや楽器の演奏、童謡を歌ったり、折り紙、貼り絵等制作したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブに行きたいと思う一人一人の希望に添って、外出や買い物の支援を行っている。外食、お花見、紅葉狩り等の年間行事を計画している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、家族ともよく話し合い、利用者は管理をしていない。買い物が可能利用者には、一緒に買い物に行き、レジで支払いをもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話を自由にかかけられるよう支援している。また、中には携帯電話を持っている方も入居しており、自由に電話をかけている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には、入居者の方が制作した作品や、絵画を展示している。季節感のある飾りを一緒に制作展示し、その時季を思い出してもらえている。また、温度湿度計を置き、管理を行っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他にデイルームを設け、少人数で会話したり、一人で過ごせるような空間がある。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居時に家族にお願いし、本人の馴染みの物を持ってきて頂き、慣れ親しんだ生活用品に囲まれた部屋で安心した生活を送ってもらえるようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を把握し、生活のあらゆる面で失敗や混乱を事前に想定し、過度な介護にならないよう支援している。状態や環境の変化があった場合には、その都度カンファレンスし、できるだけ自立した生活が送れるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 英生会 グループホーム ゆめみの

作成日：平成 22 年 8月 3 日

市町村届出日：平成 22 年 8月 10 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化や終末期についての具体的な指針がなく、今後重度化についての指針を作成していきたい。	重度化についての指針を職員間で良く話し合いながら作成し、家族とも方針を確認しあって行く。		3か月
2	35	職員の救急救命訓練は定期的な受講には至っていない。	市民向けに行われている救急救命訓練に職員全員が参加出来るようにする。		3か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。